



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

【観戦】

前回、秋祭りのことを書いた。その日の11月3日、私は東京で剣道好きな友人と剣道を全く知らん友人との3人で全日本剣道選手権大会を観戦した。朝から夕方までの長丁場。初観戦の友人が退屈になるんじゃないかと心配したけど、そんな心配をよそに友人は自分の推し(応援したい選手)を見つけて楽しそうに過ごした。テレビでの中継もあったけど、誰かの家に集まって見ているだけならこんなに楽しんでもらえんかったやろな、と思った。

緊迫した攻防を(この大会に出場する選手の一本は0.1秒の世界!)会場全体が固唾を飲んで見守る。ひとつの動作にどよめいて、旗が上がると歓声があがる。そんな会場の雰囲気はその場でしか味わえん。選手の佇まいや所作の美しさも生で見ても。それに自分の見たいことを自分の目で追っていく。会場には小・中学生の姿もあって、愛南町で剣道をしている子供たちに見てほしいな、と思った。東京は刺激が溢れとる。スポーツも芸術も一流や本物が身近にあって触れようと思えば簡単に触れられる。この格差を知れば知るほど、そういう部分では東京に住む子どもたちが羨ましくなる。愛南町の子どもたちにもそんな刺激に触れてほしい。この日以来その想いは強くなった。何ができるかな、やりたいことはたくさんあるけど。やりたいこととできることは違うからね。できることを探す日の新たなスタートです。

(テノヒラkiku)



本日！海日和!! vol.158

「泳ぐドラゴン」

ダイビングを始めたころから年賀状は、その年の干支に関する魚の写真を探して作っている。かれこれ30年近くになり、そろそろネタ切れになってしまい苦労している。

ともあれ今年は辰年、竜にちなんだ魚を探すと、皆さんご存じのタツノオトシゴ(竜の落とし子)が有名だ。それ以外にも、タツノイトコ、タツノハトコなんて魚もいる。今回は、その仲間であるニシキフウライウオを紹介したい。10cm程の小さな魚で、泳ぎが苦手、フワフワと海藻やサンゴの回りを漂っている。その様子から、フウライウオと呼ばれている。行く当てもなくさまよっている風来坊の風来である。

オスとメスのペアで漂っていたが、見事に海藻に化けており、どこが頭でどこがしっぽかさえ分かりに



【ニシキフウライウオのペア (上側がメス)】

く。右側が頭で、左がしっぽ、オスが小さく、メスの方がどっしりとしている。これは、メスは卵を産むため、魚にはよく見られる傾向である。

辰年は、力があふれ、活気づく年になるそう。兎年の私も、フウライウオのオスのように、力あふれる辰年の妻に守ってもらえる一年になりますように。

(撮影地:瀬ノ浜)

ともてる
愛南サンゴを守る会 西尾知照